

町内会の地域美化活動

篠路新生町内会会長 たか はし 高橋 たけ お 武雄

篠路新生町内会は、篠路小学校の裏に位置する篠路4条9丁目、5条8・9丁目、6条8丁目、7条8丁目と合わせて227戸の単位町内会です。

会員の皆さんは、大変仲がよく、楽しい町内で、全戸が会員です。

昭和52年4月、上篠路町内会は、農業関係が多い町内会で、137戸でしたが、サラリーマンが多くなり、事業実施の場合、農協との関係もあり、一本化が困難になり、昭和52年に解散。4町内会に分散が決定となり、私たちの篠路新生町内会が独立して57戸で発足しました。

ごみステーション 美化活動等について

篠路新生町内会は、昭和52年に発足してから、町内の美化に力を入れてまいりました。

街路升を使った花壇に花を植え、また、空き地などは、地主さんを探して、草刈りなどをする代わりに、野菜、花を植えさせてもらうなどして、とにかく町内をきれいにしようという事を皆さん

で決めることから始めます。そうして、町内の清掃、草刈りと合わせて・花見・ジンギスカンを囲む会などを行い、昭和55年には、会員95戸で45～50人の方の参加があり、昭和56年は、127戸の会員さんで、100人の参加者がありました。その後、平成に入ってから、清掃・草刈り・花壇の手入れなどを離して別の事業として行い、新年恒例会・ボーリング大会・ジンギスカンを囲む会・サクランボ狩り・七夕祭り・納涼盆踊りなど、1年に4～5回の事業を行い、その年によって、皆さんの希望で事業内容を変えながら予算を組み、きれいなまちづくりにつながり、皆さんの協力で、ごみステーションも、自主的に清掃などを行っています。以前は私たち町内会は、歩道に、ごみをまとめて置いていましたが、平成11年になって、ごみステーションにかけるネットを室蘭から取り寄せ購入して使うようになりました。ごみステーションの近くの会員さんから、場所を変えてほしい、など意見があり、メイン道路にあるごみステーションは、通りすがりの車からごみを捨てていく人が



納涼盆踊りで楽しむ子供たち



納涼盆踊り、ビールを飲みながら楽しむ

多く、移動させて改善を図りました。

札幌市ではごみの分別を行うようになってからは、ごみステーション近くの方が自主的に混ざっている、ごみ袋を開けて分別を行うなどして、協力し合っている。町内会役員自ら行くと、会員の皆さんは黙っていても、自主的に協力してくれています。



町内清掃のごみ山

平成16年になって、ごみステーションを、屋根のある箱にしてみました。1個つくと材料費だけで、2万円は掛かるので、そこで私たち町内会の役員に農家の方がいて、玉ねぎのコンテナの古いものがあるので使用しないかという話があり、使う事になりました。

コンテナの大きさは、巾1,700cm × 奥行1,050cm × 高さ1,200cmで横一面を出し入れ口として、全体をネットで覆っておき、横からネットをまくり上げて、ごみの出し入れを行う、そうすることで、



町内花壇・草取り・清掃

カラスなどが入らなくなり、周りに散らばることがなくなりました。

おわりに

そうした取り組みが評価されて、私たちの篠路新生町内会は、平成20年9月25日岩見沢市民会館で開催された、「第57回北海道公衆衛生大会」に出席し、高橋はるみ北海道知事から、「生活環境浄化実践優良地区」表彰状が授与されました。こ



北区長に受賞報告

のような賞をいただいたのも、町内会の皆さんが、日ごろから大変なご協力のたまものと感謝しております。このたびの受賞は、篠路出張所猫宮所長さん、北清掃事務所浅川係長さんなどの皆さんのご推薦を頂き、ご尽力のたまものと、深く感謝しております。また、私ども町内会は、昭和54年から環境衛生に力を入れ、歴代の役員さんのご尽力もあり、過去には、札幌市長・札幌市衛生協力連合会長表彰を受賞したこともあります。今後とも、会員の皆さんと力を合わせて・きれいなまちづくり・住み良いまちづくりに精進するよう努力していく所存です。